

⑥関連機関からの協力要請について

回答内容で、「よくされる」が574名(61.0%)と最も多かった。次いで、「あまりされない」が303名(32.2%)であった。

N=941

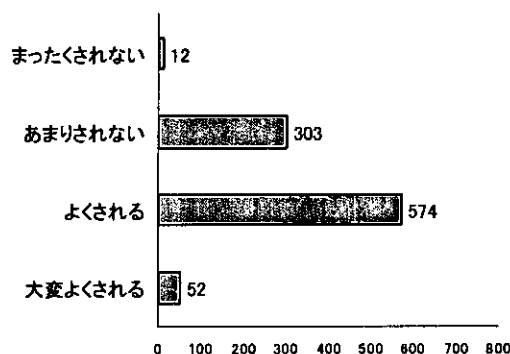


図 23 関連機関からの協力要請

⑦関連職種会議への参加について

回答内容で「あまり参加しない」が639名(67.9%)と最も多かった。次いで、「かなり多くの集まりに参加する」が238名(25.3%)であった。「全て参加する」と回答した者はいなかった。

N=941

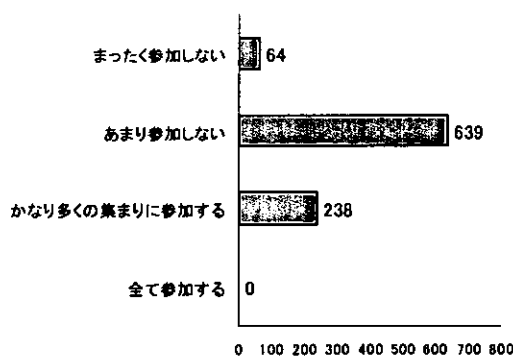


図 24 関連職種会議への参加

⑧関連機関の業務内容の理解について

回答内容で、「あまり聞いていない」が476名(50.6%)と最も多かった。次いで、「よく聞いている」が451名(47.9%)であった。「すべて聞いている」と回答した者はいなかった。

N=941

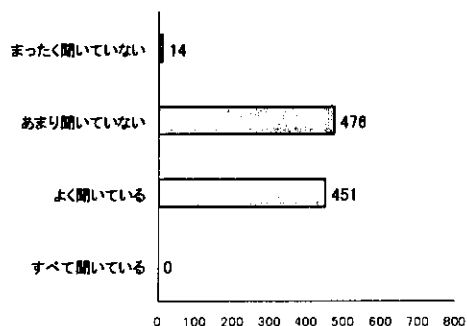


図 25 関連機関の業務内容の理解

⑨関連機関における専門職種の把握について

回答内容で、「ある程度把握している」が682名(72.5%)と最も多かった。次いで回答「あまり把握していない」が220名(23.4%)であった。

N=941

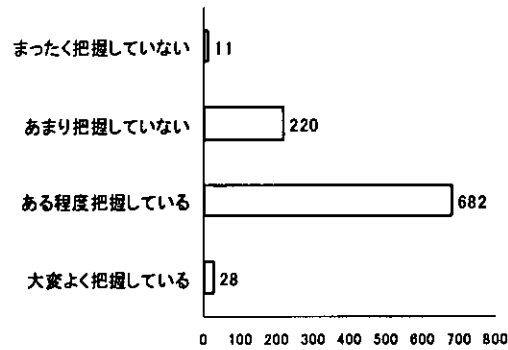


図 26 関連機関における専門職種の把握

⑩事例検討会議の参加呼びかけについて

回答内容で、「ある程度勧める」が526名(55.9%)と最も多かった。次いで「あまり勧めない」が236名(25.1%)であった。

N=941

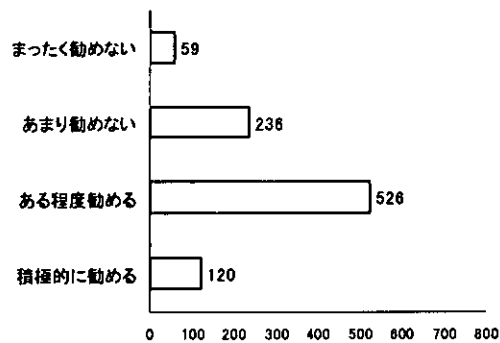


図 27 事例検討会議の参加呼びかけ

⑪関連機関や他職種との親睦会について

回答内容で、「あまり参加しない」が618名(65.7%)と最も多かった。次いで、「よく参加する」が216名(23.0%)であった。

N=941

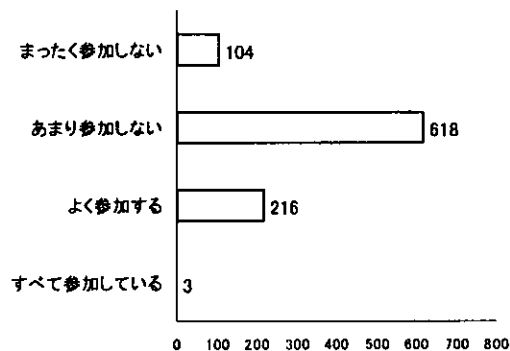


図 28 関連機関や他職種との親睦解会

⑫関連機関への挨拶回りについて

回答内容で、「だいたい回る」が509名(54.1%)と最も多かった。次いで、「いつも回る」が188名(20.0%)であった。

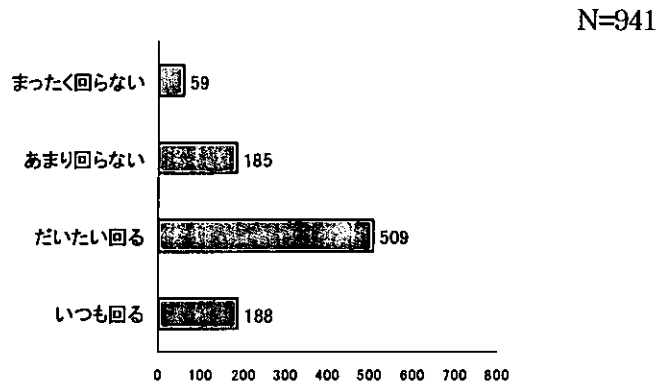


図 29 関連機関への挨拶回り

⑬複数の関連機関が参加する会議等での費用負担の決定について

回答内容で、「まったくしない」が575名(61.1%)と最も多かった。次いで、「あまりしない」が240名(25.5%)であった。

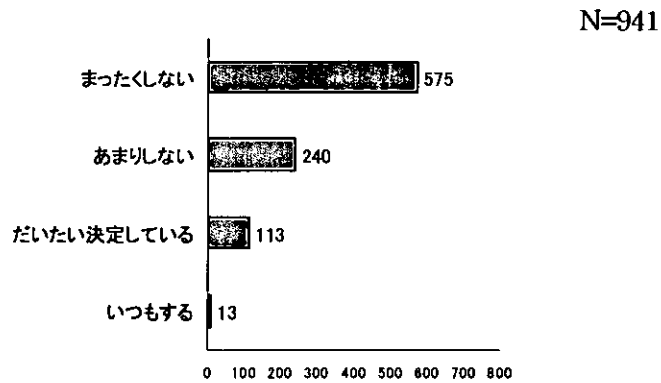


図 30 複数の関連機関が参加する会議等での費用負担の決定

⑭関連機関への業務内容についての資料配布について

回答内容で、「だいたいしている」が529名(56.2%)と最も多かった。次いで、「あまりしていない」が353名(37.5%)であった。

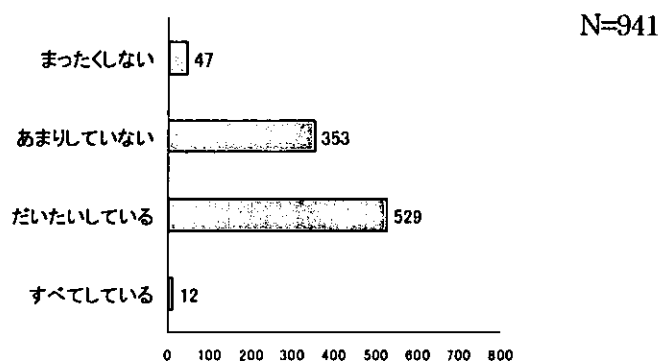


図 31 関連機関への業務内容についての資料配布

⑮利用者に関する情報の管理について

回答内容で、「だいたい管理している」が 527 名(56.0%)と最も多かった。次いで、「あまり管理していない」が 314 名(33.4%)であった。

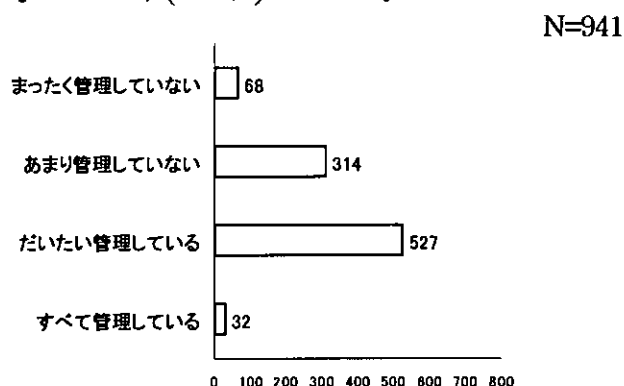
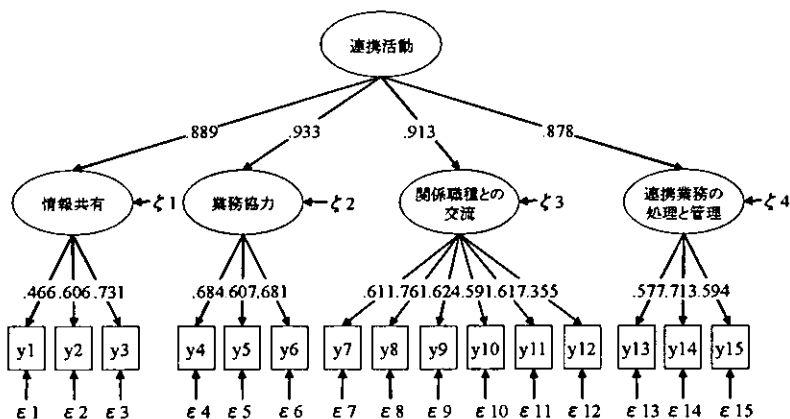


図 32 利用者に関する情報の管理

2) 保健師における一般的な連携活動の構造化

① 連携活動尺度の構成概念妥当性の検討

保健師における一般的な連携活動に関する 15 項目を用いて、連携活動の構造化を目的に、確証的因子分析をおこなった。すでに、地域福祉権利擁護事業の専門員においてその因子構造が確認されている「情報共有」3 項目、「業務協力」3 項目、「関係職種との交流」6 項目、「連携業務の処理と管理」3 項目の 4 領域 15 項目からなるモデルを使用し、データへの適合度を検討した結果、統計学的な許容水準を満たす結果が得られた(図 33)。



$\chi^2 = 280.965$   $df = 68$ ,  $p = 0.00$ ,  $CFI = 0.941$ ,  $TLI = 0.963$   $RMSEA = 0.058$   $SRMR = 0.052$

図 33 「連携活動尺度」の確証的因子分析

② 連携活動尺度の信頼性分析

4 領域 15 項目で構成した連携活動尺度の信頼性 (内的整合性) は表 3 に示すとおりであった。尺度全体では 0.822 と比較的高いものの、下位尺度別では許容水準を下回る結果となっていた。

表3. 連携活動尺度の内的整合性

質問項目	$\alpha$	$r$	$R^2$
<b>情報共有</b>			
X1 あなたは、住民・利用者に対して保健事業や援助活動をしたとき、進行状況や結果を、関連する他の機関に報告していますか	0.497	0.212	0.459
X2 あなたは、住民・利用者が、どんな制度や資源やサービスを利用しているか、把握していますか	0.314	0.326	0.118
X3 あなたは、保健事業の実施やサービス提供に必要な知識や情報を、関連する他の機関(住民組織を含む)から集めていますか	0.260	0.352	0.130
クロンバックの $\alpha$ 信頼性係数	0.464		
<b>業務協力</b>			
X4 あなたは、住民の相談内容や問題状況を基礎に関係する他部門や、関連する他の機関に対して必要とされる行政サービスやインフォーマルなサービス、事業、資源、制度、保健・介護および福祉サービスの内容を文書化し、提案していますか	0.611	0.313	0.099
X5 あなたは、関連する他の機関(住民組織を含む)に協力を要請しますか	0.433	0.423	0.214
X6 あなたは、関連する他の機関(住民組織を含む)から協力を要請されますか	0.403	0.453	0.226
クロンバックの $\alpha$ 信頼性係数	0.591		
<b>関係職種との交流</b>			
X7 あなたは、ご自分と関連する専門職の集まりだけでなく、他の職種・専門職の集まり(会議)にも参加していますか	0.606	0.397	0.212
X8 あなたは、関連する他の機関(住民組織を含む)から、その機関の業務や実施に関する内容を聞いていますか	0.584	0.470	0.263
X9 あなたは、関連する他の機関(住民組織を含む)にどのような専門職がいるか、把握していますか	0.619	0.356	0.160
X10 あなたは、事例検討会などの説明会への参加を、同僚に呼び掛けますか	0.599	0.412	0.181
X11 あなたは、関連する他の機関(住民組織を含む)や他の職種との親睦会に参加しますか	0.586	0.450	0.228
X12 あなたの機関では、新規の保健師が就任した場合、関連する他の機関(住民組織を含む)に挨拶回りをしますか	0.661	0.284	0.086
クロンバックの $\alpha$ 信頼性係数	0.672		
<b>連携業務の処理と管理</b>			
X13 自分の判断で一定の費用を決定していますか	0.547	0.276	0.783
X14 あなたは、自分の業務内容について、関連する他の機関(住民組織を含む)に資料、情報を伝達していますか	0.348	0.398	0.173
X15 あなたは、複数の関連する他の機関(住民組織を含む)・専門職で集めた利用者の情報を、管理していますか	0.391	0.361	0.158
クロンバックの $\alpha$ 信頼性係数	0.538		
尺度全体のクロンバックの $\alpha$ 信頼性係数	0.822		

$\alpha$ : 当該アイテムを除いたときのクロンバックの $\alpha$ 信頼性係数  
 $r$ : 当該アイテムを除いたときの合計と当該アイテムとの相関関係  
 $R^2$ : 当該アイテムとそれ以外のアイテムの重相関係数の2乗

### 3) 連携活動尺度の合計得点

連携活動尺度(合計得点 45 点満点)の平均得点は 23.2 点(標準偏差 4.90、範囲 7-37)であった(図 34)。

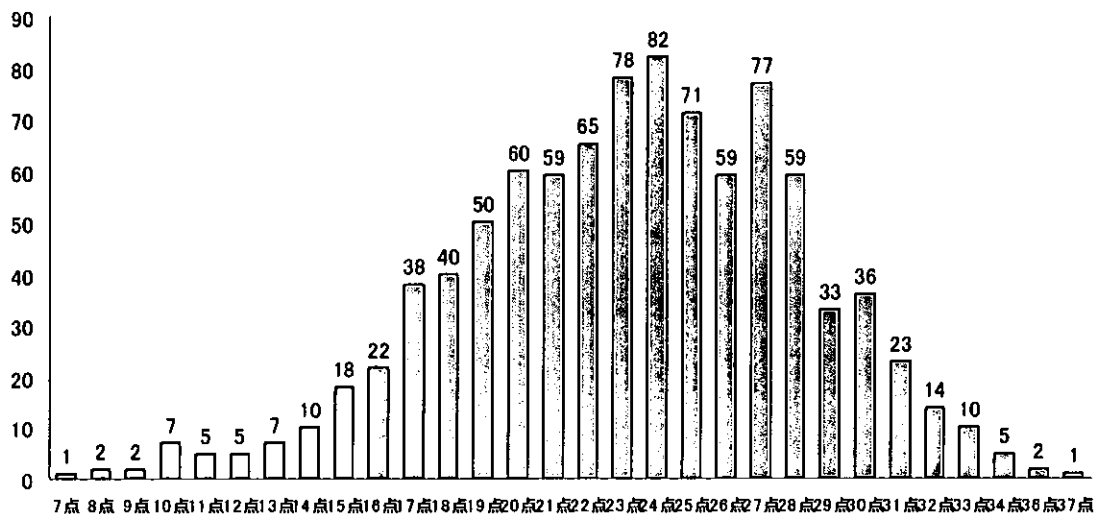


図 34 連携活動尺度の合計得点

## ⑦ 日常業務評価と日常業務負担感

日常の業務評価と日常業務負担感に関する項目 12 項目について欠損値のない 845 名を解析対象とした。

### 1) 回答分布

日常の業務評価に関する項目について欠損値のない 845 名を対象に記述統計をおこなった。回答分布は図 35 に示す通りである。

回答内容で、「いつも」に着目するなら、「人員配置数が不十分な業務」や、「その日のうちにはとても終わりきらない業務」、「急いで、仕上げなければならない業務がいつもある」が多かった。

回答内容で、「ない」に着目するなら「非協力的な職員と一緒にする業務をすることがある」が少なかった。

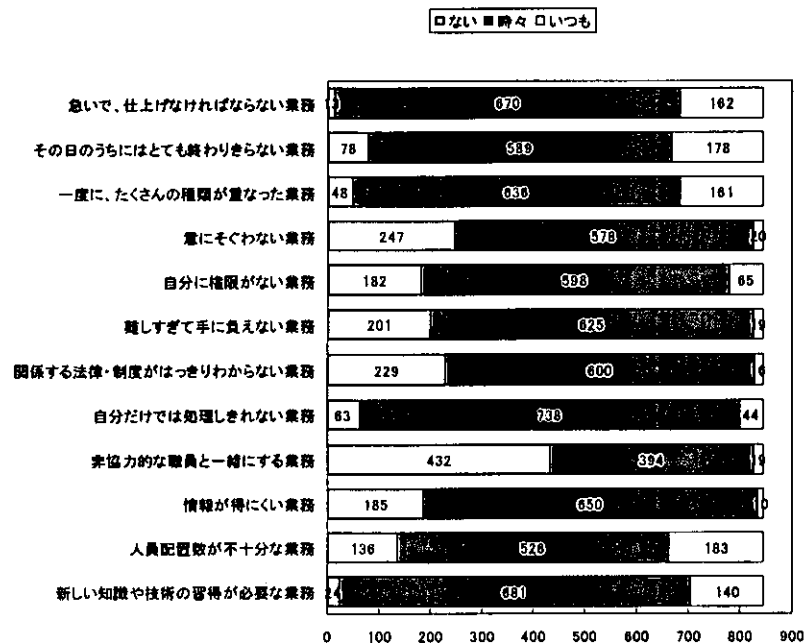


図 35 日常業務評価 (N=845)

日常の業務について、それをどの程度負担に感じるかどうかに関する項目の回答分布は図 36 に示す通りである。

回答内容で、「かなり」に着目するなら「情報が得にくい業務」や「関係する法律・制度がはっきりわからない業務」、「新しい知識や技術の習得が必要な業務」をすることを負担だと感じている者が多かった。

回答内容で、「まったくない」に着目するなら「意にそぐわない業務」、「自分だけでは処理しきれない業務」をすることを負担だと感じている者は少ない傾向にあった。

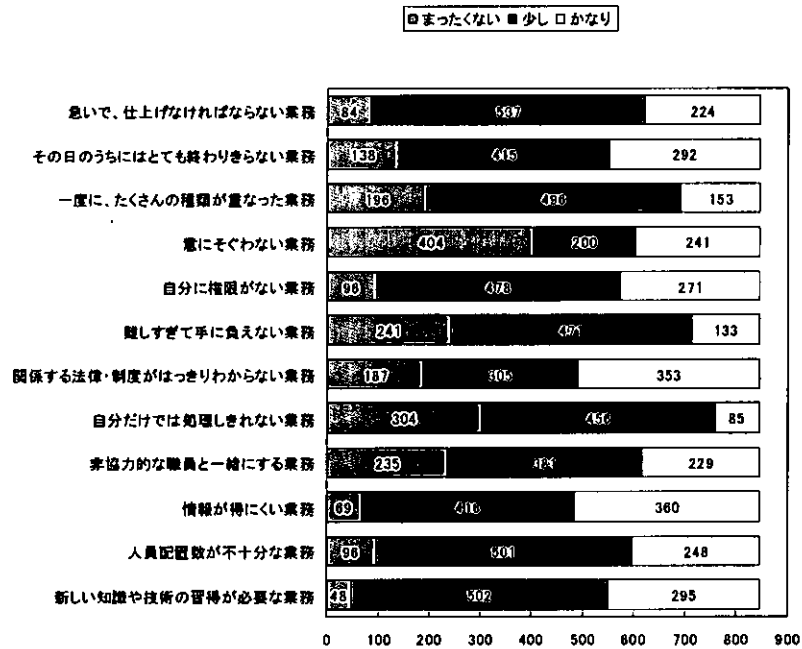
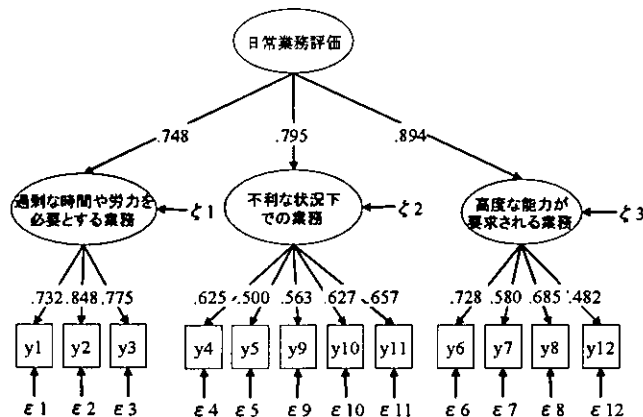


図 36 業務負担感 (N=845)

## 2) 日常業務評価についての構造化

### ① 日常業務評価尺度の構成概念妥当性の検討

「過剰な時間や労力を必要とする業務」3項目、「不利な状況下での業務」5項目、「高度な能力が要求される業務」4項目の3領域を仮定し、その因子構造モデルのデータへの適合度を確証的因子分析で検討した。その結果、モデルのデータへの適合度は統計学的な許容水準を満たすものであった(図37)。



$\chi^2 = 188.528$   $df = 40$ ,  $p = 0.00$ ,  $CFI = 0.921$ ,  $TLI = 0.935$ ,  
 $RMSEA = 0.066$ ,  $SRMR = 0.068$

図 37 「日常業務評価尺度」の確証的因子分析結果

## ② 日常業務評価尺度の信頼性分析

3領域 12項目で構成した日常業務評価尺度の信頼性（内的整合性）は表4に示すとおりであった。尺度全体ならびに下位尺度のクロンバックの $\alpha$ 信頼性係数は高くなかった。

表4. 日常業務評価尺度の内的整合性

質問項目	$\alpha$	$r$	$R^2$
<b>過剰な時間や労力と必要とする業務</b>			
X1 急いで、仕上げなければならない業務	0.607	0.462	0.607
X2 その日のうちにはとても終わりきらない業務	0.598	0.474	0.598
X3 一度に、たくさんの種類が重なった業務	0.516	0.526	0.516
クロンバックの $\alpha$ 信頼性係数	0.675		
<b>不利な状況下での業務</b>			
X4 意にそぐわない業務	0.523	0.423	0.188
X5 自分に権限がない業務	0.574	0.321	0.119
X9 非協力的な職員と一緒にする業務	0.537	0.391	0.165
X10 情報が得にくい業務	0.568	0.336	0.125
X11 人員配置数が不十分な業務	0.561	0.355	0.139
クロンバックの $\alpha$ 信頼性係数	0.612		
<b>高度な能力が要求される業務</b>			
X6 難しすぎて手に負えない業務	0.389	0.357	0.140
X7 関係する法律・制度がはっきりわからない業務	0.464	0.283	0.087
X8 自分だけでは処理しきれない業務	0.405	0.361	0.136
X12 新しい知識や技術の習得が必要な業務	0.501	0.232	0.059
クロンバックの $\alpha$ 信頼性係数	0.521		
尺度全体のクロンバックの $\alpha$ 信頼性係数	0.748		

$\alpha$ : 当該アイテムを除いたときのクロンバックの $\alpha$ 信頼性係数

$r$ : 当該アイテムを除いたときの合計と当該アイテムとの相関関係

$R^2$ : 当該アイテムとそれ以外のアイテムの重相関係数の2乗

## 3) 日常業務評価尺度の合計得点

日常業務評価尺度(24点満点)の平均得点は 11.0 点(標準偏差 2.99、範囲 0-22 点)であった。

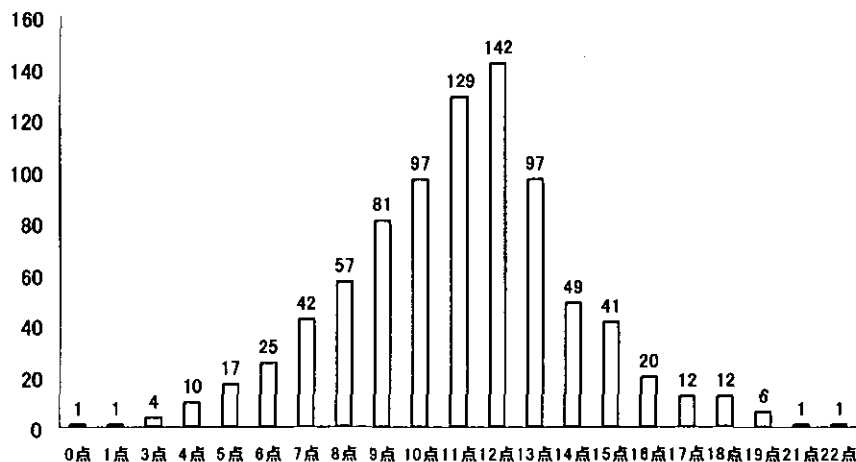


図38 日常業務評価尺度の合計得点



#### 4) 日常業務負担感についての構造化

##### ①日常業務負担感尺度の構成概念妥当性の検討

「業務に対する切迫感」3項目、「業務環境に対する不満」5項目、「能力の欠如感」4項目の3領域を仮定し、その因子構造モデルのデータへの適合度を確証的因子分析で検討した。その結果、モデルのデータへの適合度は統計学的な許容水準を満たすものであった(図39)。

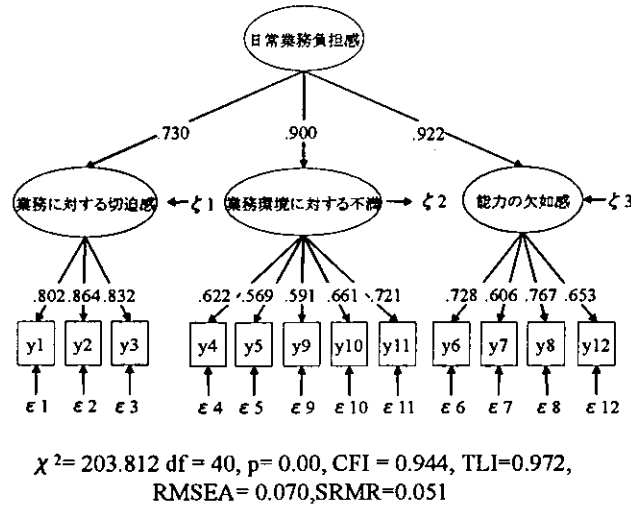


図39 「日常業務負担感尺度」の確証的因子分析結果

##### ②日常業務負担感尺度の信頼性分析

3領域12項目で構成した日常業務負担感尺度の信頼性(内的整合性)は表5に示すとおりであった。尺度全体ならびに下位尺度のクロンバックの $\alpha$ 信頼性係数はおおむね良好であった。

表5. 日常業務負担感尺度の内的整合性

質問項目	$\alpha$	$r^2$	$R^2$
<b>業務に対する切迫感</b>			
X1 急いで、仕上げなければならない業務	0.715	0.608	0.370
X2 その日のうちにはとても終わらせない業務	0.692	0.627	0.393
X3 一度に、たくさんの種類が重なった業務	0.701	0.620	0.385
クロンバックの $\alpha$ 信頼性係数	0.781		
<b>業務環境に対する不満</b>			
X4 意にそぐわない業務	0.627	0.475	0.247
X5 自分に権限がない業務	0.649	0.428	0.195
X9 非協力的な職員と一緒にする業務	0.629	0.480	0.234
X10 情報が得にくい業務	0.654	0.415	0.187
X11 人員配置数が不十分な業務	0.642	0.442	0.205
クロンバックの $\alpha$ 信頼性係数	0.692		
<b>能力の欠如感</b>			
X6 難しすぎて手に負えない業務	0.613	0.514	0.276
X7 関係する法律・制度がはっきりわからない業務	0.642	0.459	0.211
X8 自分だけでは処理しきれない業務	0.593	0.541	0.296
X12 新しい知識や技術の習得が必要な業務	0.666	0.419	0.183
クロンバックの $\alpha$ 信頼性係数	0.697		
尺度全体のクロンバックの $\alpha$ 信頼性係数	0.837		

$\alpha'$ : 当該アイテムを除いたときのクロンバックの $\alpha$ 信頼性係数

$r^2$ : 当該アイテムを除いたときの合計と当該アイテムとの相関関係

$R^2$ : 当該アイテムとそれ以外のアイテムの重相関係数の2乗

5) 日常業務負担感尺度の合計得点

業務負担感尺度(合計得点 24 点満点)の平均得点 12.9 点(標準偏差 4.78、範囲 0-24)であった(図 40)。

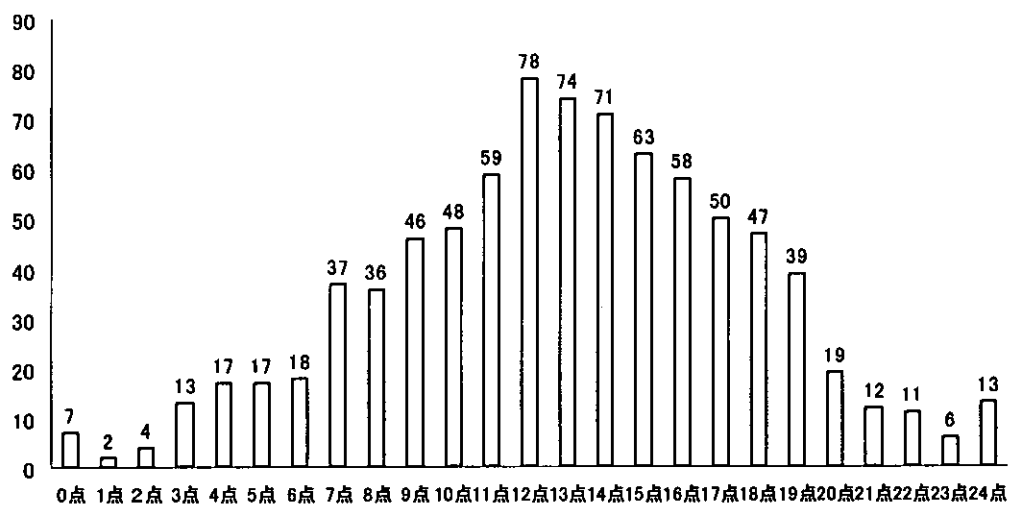


図 40 日常業務負担感尺度の合計得点

## ⑧ 精神的健康

### 1) 回答分布

General Health Questionnaire 12 項目に欠損値のない 951 名を対象に記述統計をおこなった。

General Health Questionnaire 12 項目版の平均得点は 3.52 点(標準偏差 2.79、範囲 0-12)であった(図 36)。

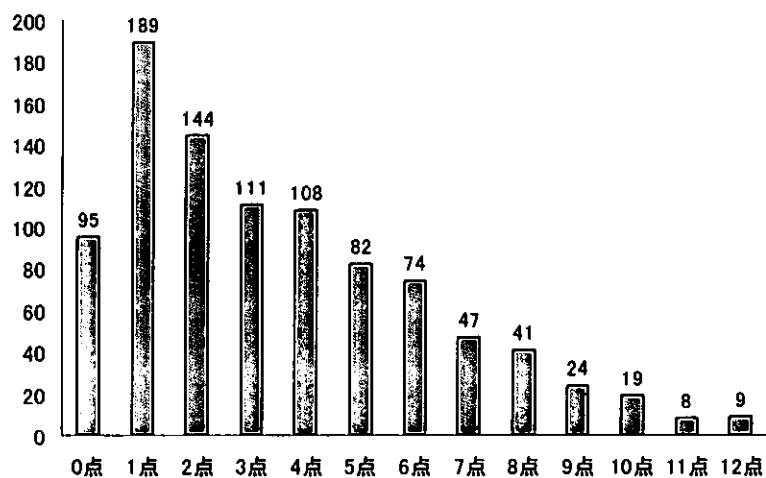


図 41 精神的健康 (N=951)

## ⑨ 介護保険制度に関する業務

介護保険に関する業務の項目に欠損値のない913名を解析対象とした。

### 1) 所属部署

「保健」がもっとも多く478名(52.4%)であった。次いで「保健福祉」が324名(35.5%)であった。

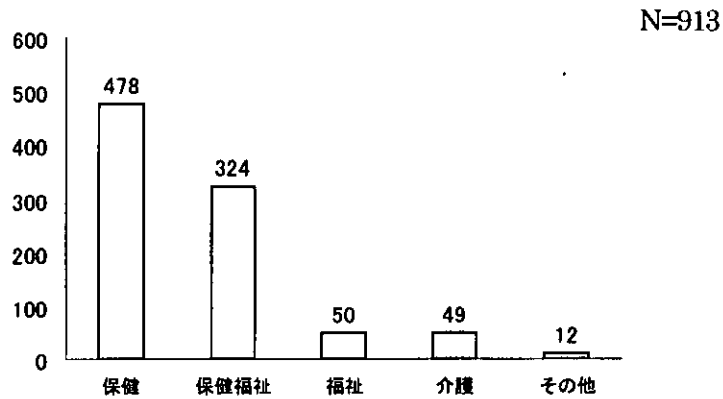


図42 所属部署

### 2) 介護保険制度に関する業務の経験

介護保険制度に関する業務の経験に関する回答分布は図38に示すとおりであった。

回答内容で、「今、やっている」に着目すると、「要支援者への介護予防」が407名(44.6%)と最も多く、次いで「非認定者(要介護認定後、“自立”と認定された者)のフォロー」が392名(42.9%)、「要介護・要支援者への個別指導」が350名(38.3%)、「介護サービス事業者・施設との連携・調整」が333名(36.5%)であった。

回答内容で、「経験なし」に着目すると、「介護サービス計画(ケアプラン)の作成指導およびチェック」、「介護サービス事業者・施設への指導・助言」などが多かった。

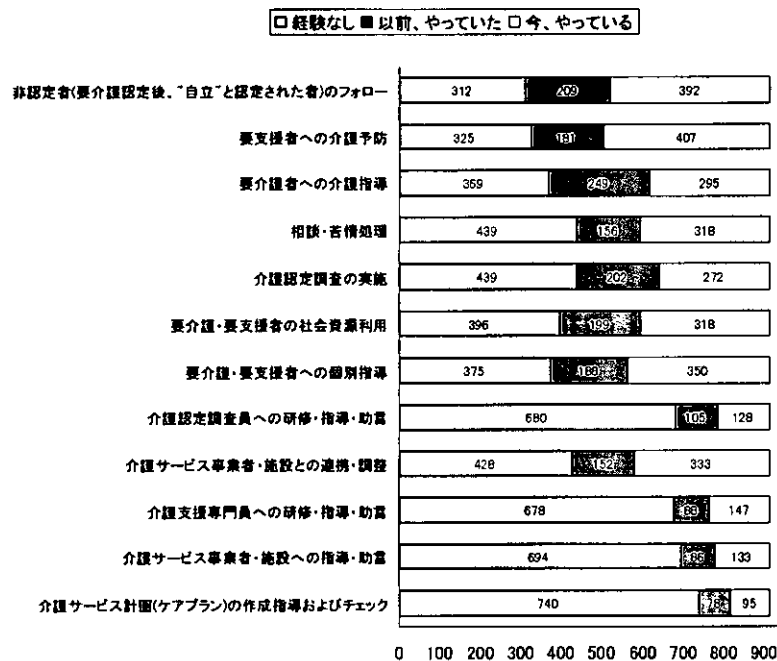


図43 介護保険制度に関する業務の経験 (N=913)

### 3) 保健師における介護保険制度に関する業務の重要性

介護保険制度に関する業務が、保健師の重要な「本来の業務だと考えている」人が571名(62.5%)、「そうでない」人が342名(37.5%)であった。

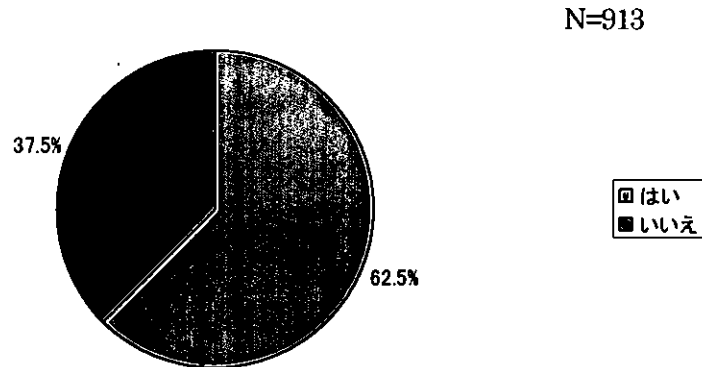


図44 介護保険制度に関する業務の重要性

### 4) 介護保険制度に関する業務で重要な取り組み

介護保険制度に関連する地域保健活動の取り組みとして、最も重要だと考えられているのは「健康づくり、介護予防活動の強化」の679名(74.4%)であった。他の業務を回答している者は概して少ないといえる。

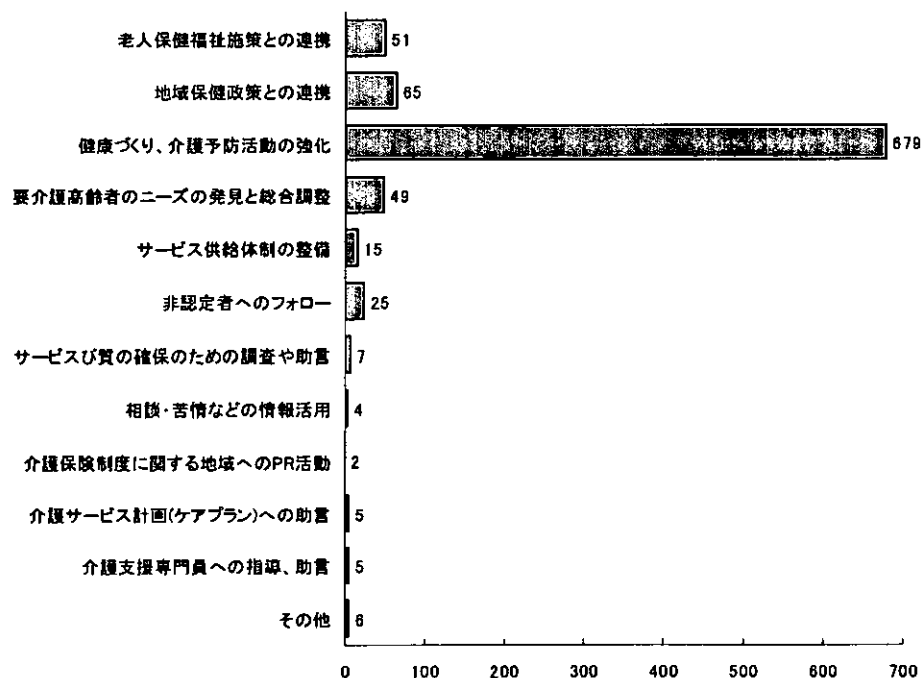


図45 介護保険制度で重要な取り組み (N=913)

## 第2節 調査2についての結果

### ① 印象に残っている1事例の利用者について

印象に残っている1事例の利用者に関する項目について欠損値のない941名を対象に記述統計をおこなった。

#### 1) 性別・年齢

印象に残っている1事例の利用者の性別は、男性295名(31.3%)、女性646名(68.7%)であった。平均年齢は45.4歳(標準偏差24.31、範囲0-99)であった。

#### 2) 相談内容

「母子保健」に関する相談が311名(33.0%)、「精神保健」に関する相談が316名(33.6%)と多い傾向にあった。「感染症」や「難病」に関する相談内容は少ない傾向にあった。

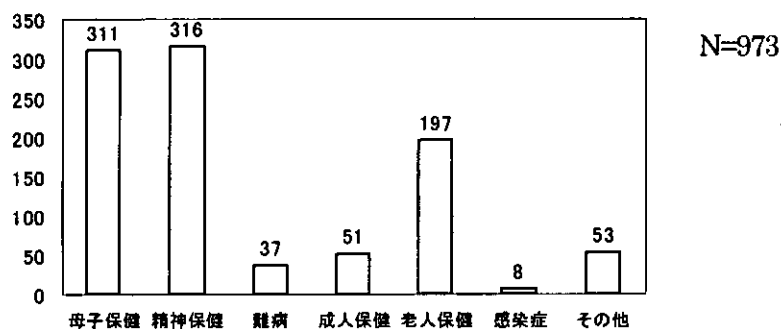


図46 相談内容 (複数回答を含む)

#### 3) 面接の頻度

面接の頻度は、「月に2~3回」が494名(52.5%)と最も多かった。

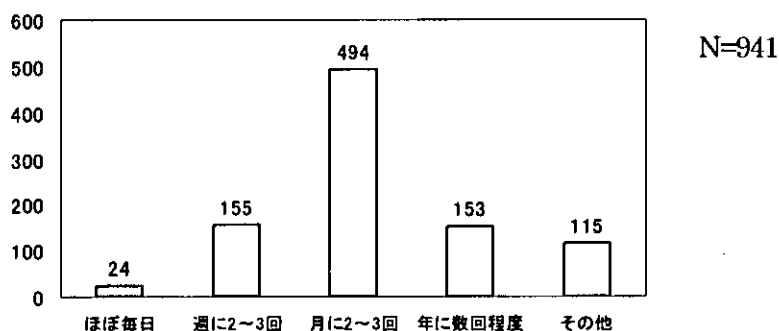


図47 面接の頻度

#### 4) 面接所要時間

欠損値のない521名に着目すると、一度の面接の所要時間は、「一日に平均73分」行くと回答した者が210名(40.3%)と最も多く、次いで、「月に平均112分」と回答した者が188名(36.0%)であった。

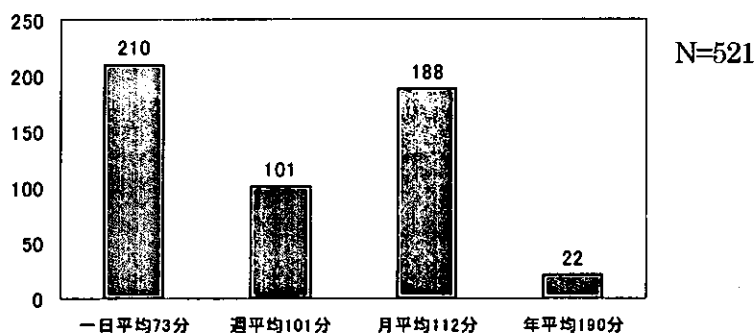


図48 面接所要時間

### ② 事例の取り組みに対する評価

事例の取り組みに対する評価の項目について欠損値のない939名を解析対象とした。事例の取り組みに対して「一部改善した」と評価しているものが518名(55.2%)と最も多かった。

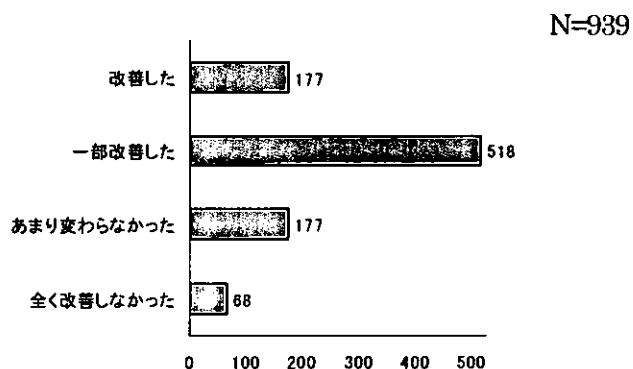


図49 事例の取り組みに対する評価

### ③ 対応事例について

対応事例に関する項目に欠損値のない957名を対象に解析をおこなった。事例を扱っている同時期に他の事例も受け持っていたと回答した者は832名(86.9%)であった。

年間に対応する事例数に関する質問に欠損値のない890名を使用して記述統計を行った結果、1年間に約103名であった。うまくいった事例は全体の約63.8%という結果であった。

## ④ 1 事例における連携活動状況

調査2でこれまでに印象に残った1事例に対対応した際の連携活動状況について調査をおこなった。以下の結果はこれらに関する項目15項目に欠損値のない912名を対象に記述統計をおこなった。回答分布は図50～図64に示すとおりである。

### 1) 回答分布

#### ① 分担して援助活動をしたときの関連機関への結果の報告

回答内容で、「必要に応じて報告した」が598名(65.6%)と最も多かった。次いで、「いつも報告した」が283名(31.0%)であった。調査1の結果と比べてみると、印象に残った1事例に関しては、報告を行なったという回答をした割合が多いことがわかる。

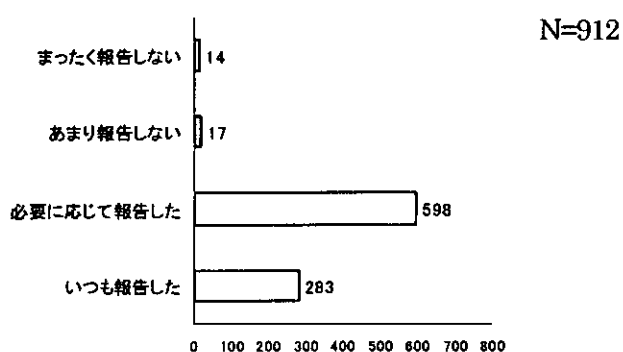


図50 関連機関への結果の報告

#### ② 利用者のサービス内容の把握

回答内容で、「ある程度把握した」が511名(56.0%)と最も多かった。次いで、「大変よく把握した」が389名(42.7%)であった。調査1の結果と比べてみると、印象に残った1事例に関しては、利用者のサービス内容について把握していたという回答をした割合が多いことがわかる。

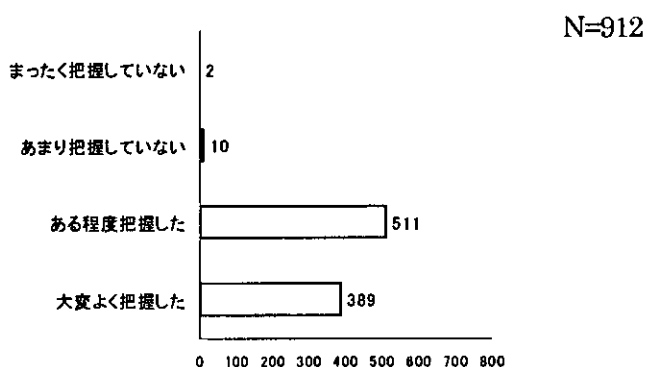


図51 利用者のサービス内容の把握



### ③関連機関からの知識や情報の収集

回答内容で、「だいたい集めた」が609名(66.8%)と最も多かった。次いで、「よく集めた」が241名(26.4%)であった。調査1の結果と比べてみると、印象に残った1事例に関しては、関連機関からの知識や情報について収集していたという回答をした割合が多いことがわかる。

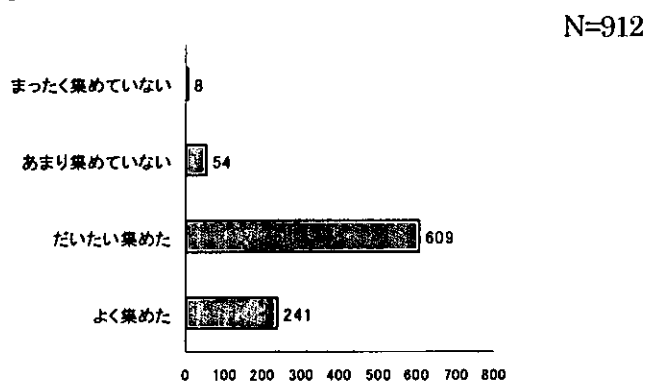


図 52 関連機関からの知識や情報の収集

### ④関連機関に対する必要なサービス・プログラムの提言について

回答内容で、「ある程度した」が410名(45.0%)と最も多かった。次いで、「あまりしていない」が322名(35.3%)であった。調査1の結果と比べてみると、印象に残った1事例に関しては、関連機関に対する必要なサービス・プログラムについて提言していたという回答をした割合が多いことがわかる。

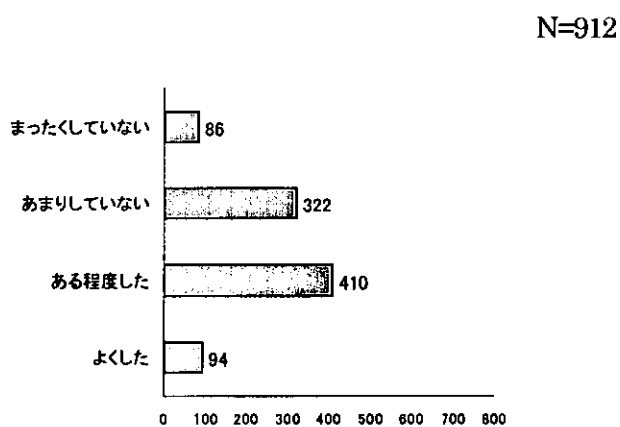


図 53 関連機関に対する必要なサービス・プログラムの提言

### ⑤ 関連機関への協力要請について

回答内容で、「ある程度していた」が 495 名(54.3%)と最も多かった。次いで、「よくした」が 322 名(35.3%)であった。調査 1 の結果と比べてみると、印象に残った 1 事例に関しては、関連機関へ協力要請していたという回答をした割合が多いことがわかる。

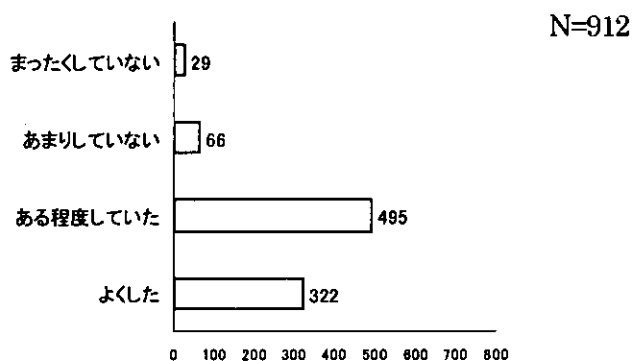


図 54 関連機関への協力要請

### ⑥ 関連機関からの協力要請について

回答内容で、「よくされた」が 545 名(59.8%)と最も多かった。次いで、「あまりされない」が 199 名(21.8%)であった。調査 1 の結果と比べてみると、印象に残った 1 事例に関しては、関連機関から協力の要請を受けていたという回答をした割合が多いことがわかる。

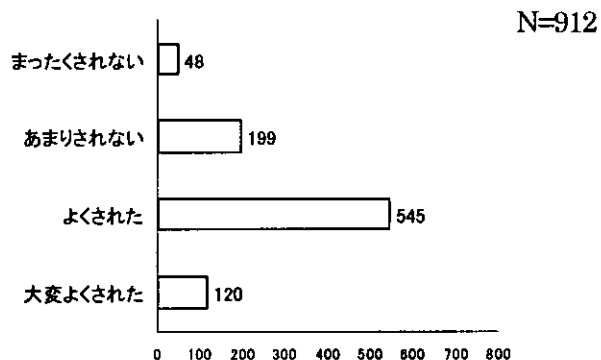


図 55 関連機関からの協力要請

### ⑦関連職種会議への参加について

回答内容で、「あまり参加しない」が460名(50.4%)と最も多かった。次いで、「かなり多くの集まりに参加した」が271名(29.7%)であった。調査1の結果と比べてみると、印象に残った1事例に関しては、関連職種会議へ参加していたという回答をした割合が多いことがわかる。

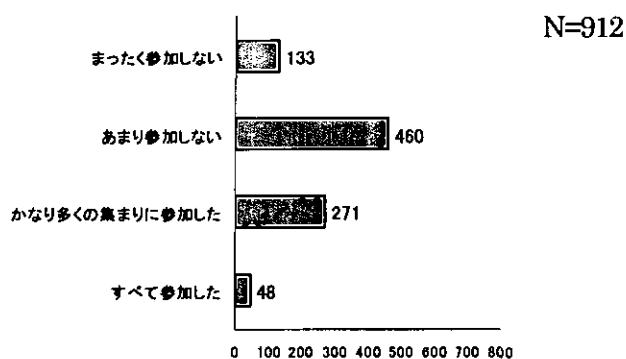


図56 関連職種会議への参加

### ⑧関連機関の業務内容の理解について

回答内容で、「よく聞いていた」が593名(65.0%)と最も多かった。次いで、「あまり聞いていない」が230名(25.2%)であった。調査1の結果と比べてみると、印象に残った1事例に関しては、関連機関の業務内容について理解していたという回答をした割合が多いことがわかる。

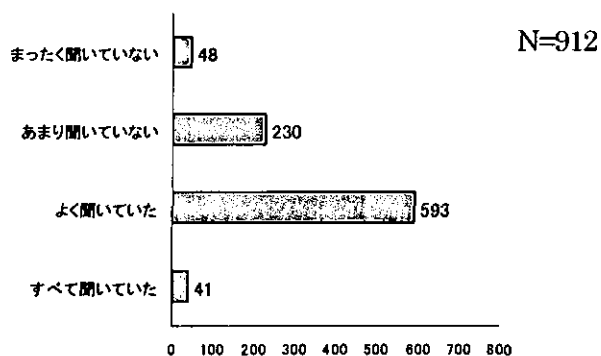


図57 関連機関の業務内容の理解

### ⑨関連機関における専門職種の把握について

回答内容で、「ある程度把握している」が709名(77.7%)と最も多かった。次いで、「大変よく把握していた」が101名(11.1%)、「あまり把握していない」が85名(23.4%)であった。調査1の結果と比べてみると、印象に残った1事例に関しては、関連機関における専門職種について把握していたという回答をした割合が多いことがわかる。

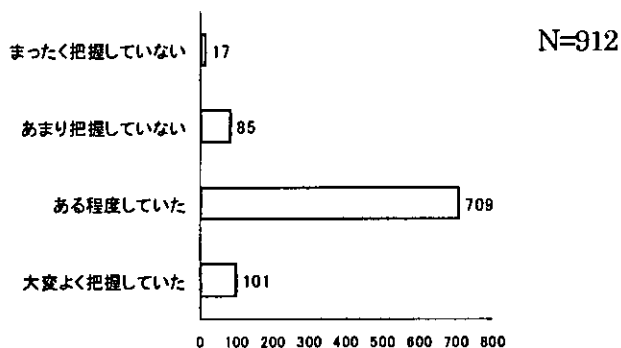


図 58 関連機関における専門職種の把握

### ⑩事例検討会議の参加呼びかけについて

回答内容で、「ある程度勧めた」が373名(40.9%)と最も多かった。次いで、「あまり勧めない」が257名(28.2%)であった。調査1の結果と比べてみると、印象に残った1事例に関しては、事例検討会議の参加呼びかけをしていたという回答をした割合が少ないことがわかる。

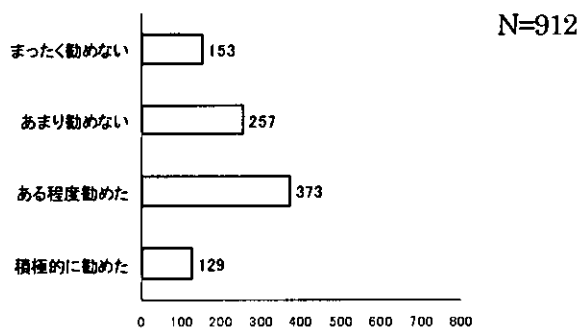


図 59 事例検討会議の参加呼びかけ